



- 2 エッセイ／“おかね”を語る  
あなたはお札をどれだけ覚えていますか 漫画家・ミュージシャン 久住昌之
- 4 インタビュー／扉を開く  
さかなクン 東京海洋大学名誉博士・客員准教授  
お魚が好きで良かった
- 9 地域の底力——熊本県阿蘇郡南小国町  
美しい里山を舞台に  
あらたな挑戦が広がる熊本県南小国町
- 17 対談／守・破・創  
野矢茂樹 立正大学文学部哲学科教授・東京大学名誉教授  
黒田東彦 日本銀行総裁  
デジタル化の中で立ち止まり問い直す哲学の姿勢に学ぶ
- 22 FOCUS → BOJ ③⑨ 日本銀行の気候変動に関する取り組み  
総力戦で世界が直面する課題に挑む日本銀行の気候連携ハブ  
日本銀行のレポートから
- 28 「経済・物価情勢の展望」(展望レポート) —2022年1月—
- 30 「地域経済報告」(さくらレポート) —2022年1月—
- 31 トピックス  
一万円札の肖像交代を前に福澤諭吉ゆかりの地で  
冬休み特別展示イベントを開催 ほか
- 35 AIR MAIL from London  
ロンドンにおける交通手段の「エコ化」

※取材は感染対策を徹底して実施しています。  
本誌は3月2日(水)までの情報をもとに掲載しています。

表紙の店舗は、日本銀行名古屋支店の四代目店舗で、昭和二十四年（一九四九）に現在の桜通伏見の角地（当時の菅原町一丁目一番地）に建築されました。終戦後の物資不足の中、急ごしらえの木造建築だったため、歩けば床がきしむ状態だったと記録されています。一方で、金庫だけは中央銀行の生命線であるとして、政府の特別許可を得て、鉄筋コンクリートで造られました。当時、名古屋市の人口は一〇〇万人を超え、東京都区部・大阪市に次ぐ規模でした。このような戦後復興の中で、厳しい状況にあった自動車産業へ、融資あっせんなどの対応策を講じることもありました。また、昭和三十四年（一九五九）九月の伊勢湾台風襲来時には、約七五万枚の損傷銀行券・貨幣が支店に持ち込まれたほか、現金供給の交通網が一部遮断されたため、大阪支店からの応援も受けながら対応に当たりました。その後、建て替えに伴う一時移転を経て六代目店舗として営業する現在の名古屋支店は、本年三月で開設一二五周年を迎えます。今後も、東海地域の経済を見守り続けていきます。

表紙のことば



表紙・画 北村公司